# 屏風
# BYOBU

丸山　一朗

# 1.骨(本体)の点検

骨の点検

骨本体の寸法、框(かまち)、組子の「ねじれ」や「ゆがみ」などの不良点の有無を確認し、不良点は修正する。

# 2.下張作業（骨縛り）

## 骨縛り

骨組みをしっかりと固定し、骨組み自体の強度を高める工程です。骨縛りを行うことで、長期間使用されても変形しにくく、安定した状態を保つことができます。

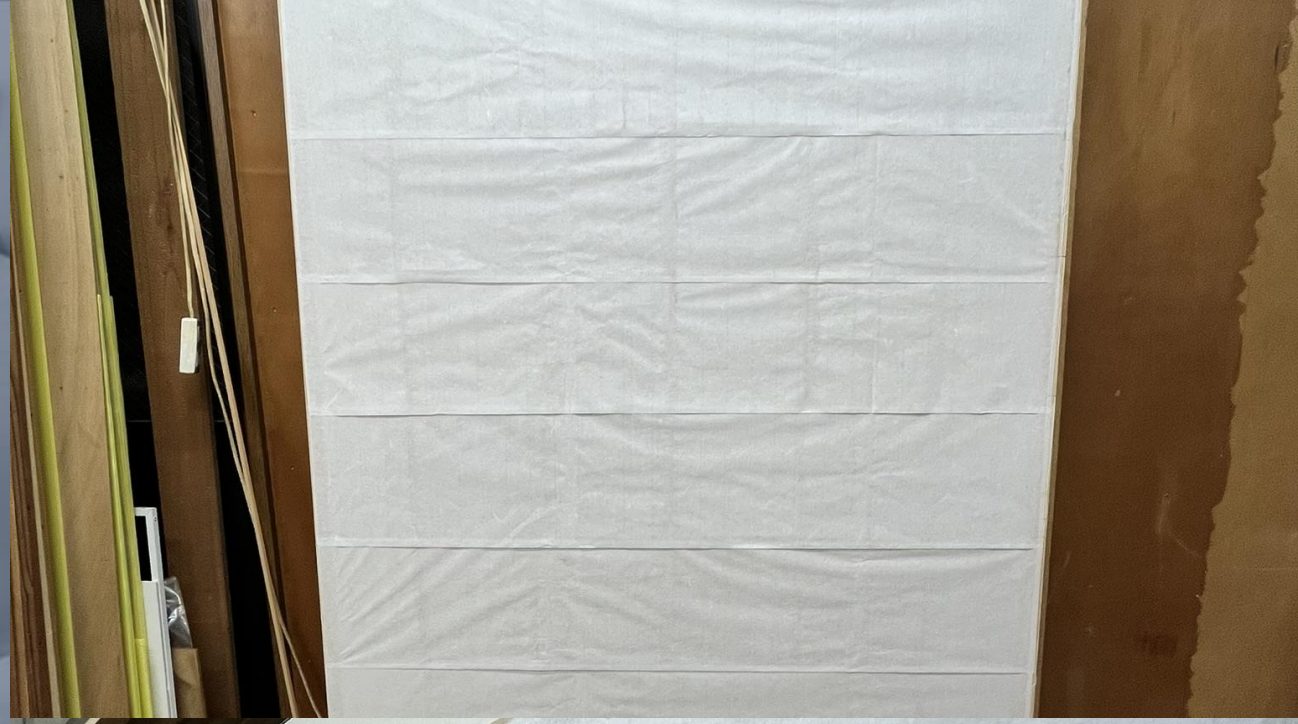
# 3.下張作業（二編蓑貼り）

蓑（みの）張り

製品の程度に応じ、一遍蓑、二編蓑、三遍蓑と貼り重ねる回数が分けられる

薄手の和紙を四方の框（かまち）に1寸（30㎜）程度と縦組子の中間に糊を付け、二編蓑の場合は一段目に半分丈の紙を最初に貼り、その倍丈の紙をすべて重なるように貼り二段目からは一段目の半分が重なるように貼り進める。

昔の雨具「蓑」に似た見た目に由来しています。紙を重ねて貼るため、重なり具合が蓑のように見えることからその名が付けられました。



# 4.下張作業（蓑押え貼り）

## 蓑（みの）押え貼り

蓑張りの上から中肉程度の和紙で「べた貼り」をし、蓑張り用紙と重ね貼りの状態にして、浮いている蓑張りの面を押さえる下張りで下地固めの仕上がりと言えます。

# 5.骨削り作業（回りすき）

回りすき

下貼りで貼り重ねた紙の厚みと框（かまち）表面の段差を小刀を用いて平らになるよう紙をすきとる作業です。

# 6.骨削り作業（増釘入れ）

増釘（ましくぎ）

角しわ防止、本体の強度を増す為、縦框（たてかまち）の四隅に錐（きり）で下穴をあけ1寸2分の釘を打つ。

# 7.骨削り作業（骨の綴り合せ）

骨の綴り（つづり）合せ

二曲一隻（せき）の場合は二枚を一組にまとめ、框（かまち）の両端と中ほどに竹釘やはた金などで固定し綴り合せる。

# 8.骨削り作業（削り付け）

削り付け

縦框（たてかまち）、上下框（じょうげかまち）の通り付けを直角に、歪みやこがえりなどが無いよう寸法通りに削り付ける。

# 9.紙つがい取付作業（寸法割付）

紙つがい寸法割付

紙つがいの羽根の数は偶数に割付けるものを「丁つがい」、奇数に割付けるものを「半つがい」という。

六つ割法

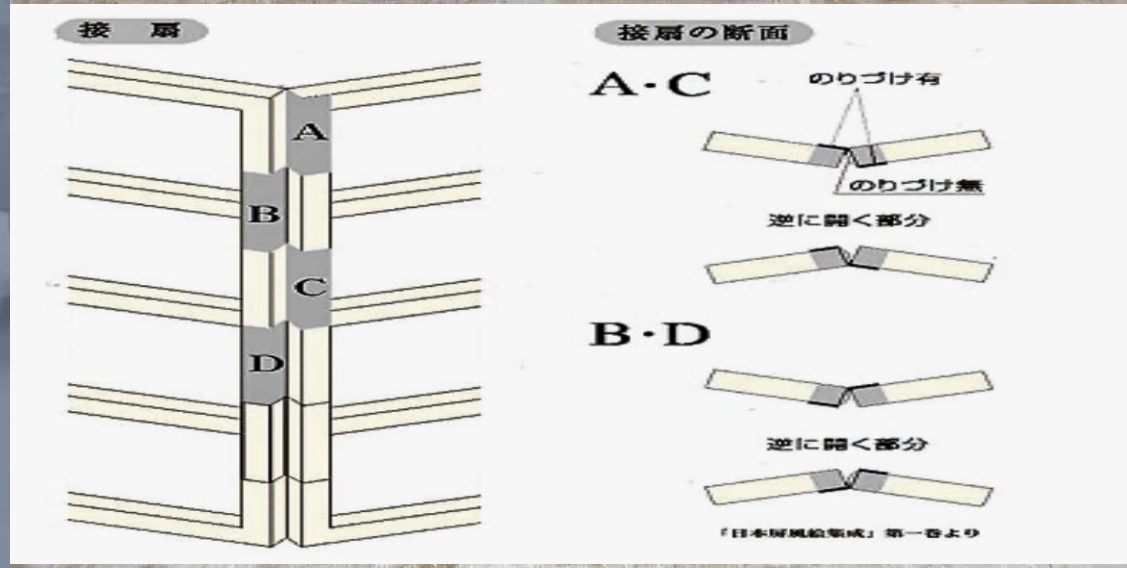
骨丈（ほねたけ）÷5＝P（2.3.4.5段の羽根の長さ）

P÷2＝（1.6段の羽根の長さ）の寸法で印をつけ浅く鋸目（のこめ）を入れる。

# 10.紙つがい取付作業（羽根付け）

羽根付け

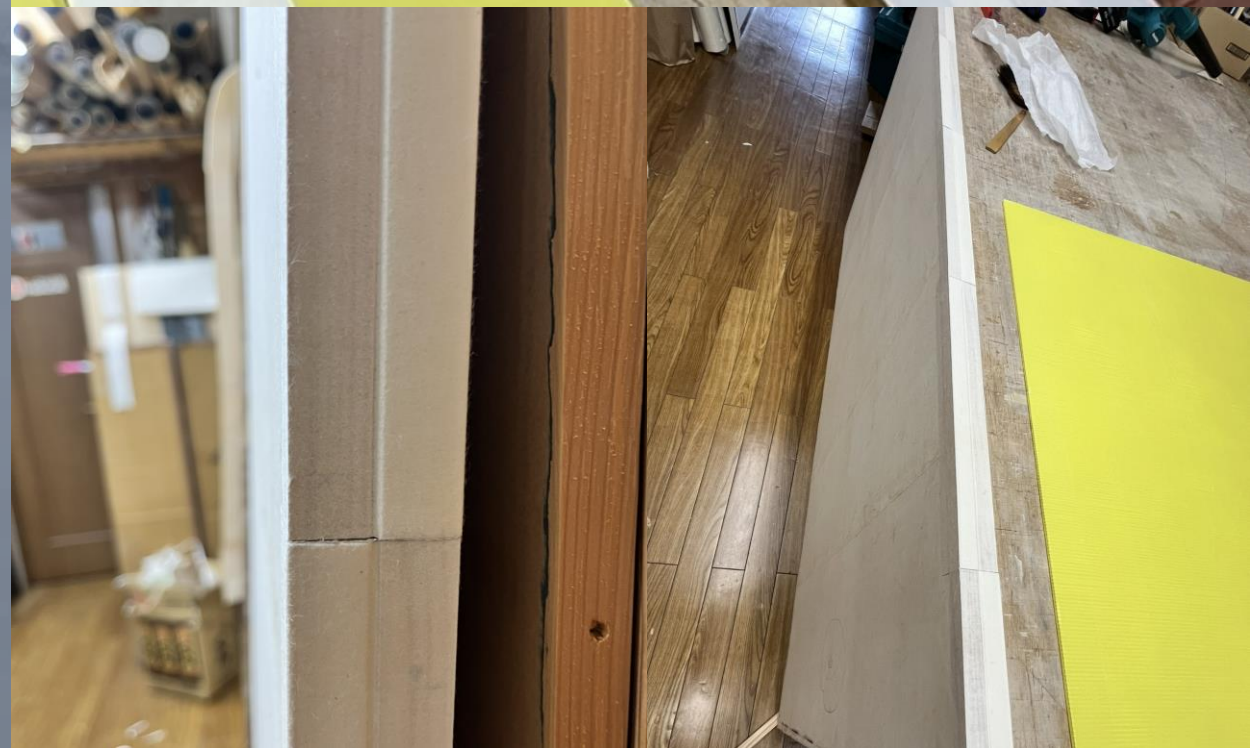
中肉程度の強靭な和紙で横使いし、貼り付け後につなぎ合わせる際に骨の間、框（かまち）部分に合差（あいさ）を挟み、上張りの厚み分のゆるみをつくり接扇（せっせん）する。



# 11.紙つがい取付作業（羽根くるみ）

羽根くるみ

中肉程度の和紙で框（かまち）のおぜ（外側）から羽根を補強するため、二曲分をくるみ骨と骨の合差（あいさ）貼分の溝にヘラで軽く入れ込みなじませるように貼り込み、前工程で印したつがいの各段の境目の鋸目（のこめ）に沿って刃物で切れ目を入れる。



# 12.下張り作業（下袋貼り）

下袋貼り

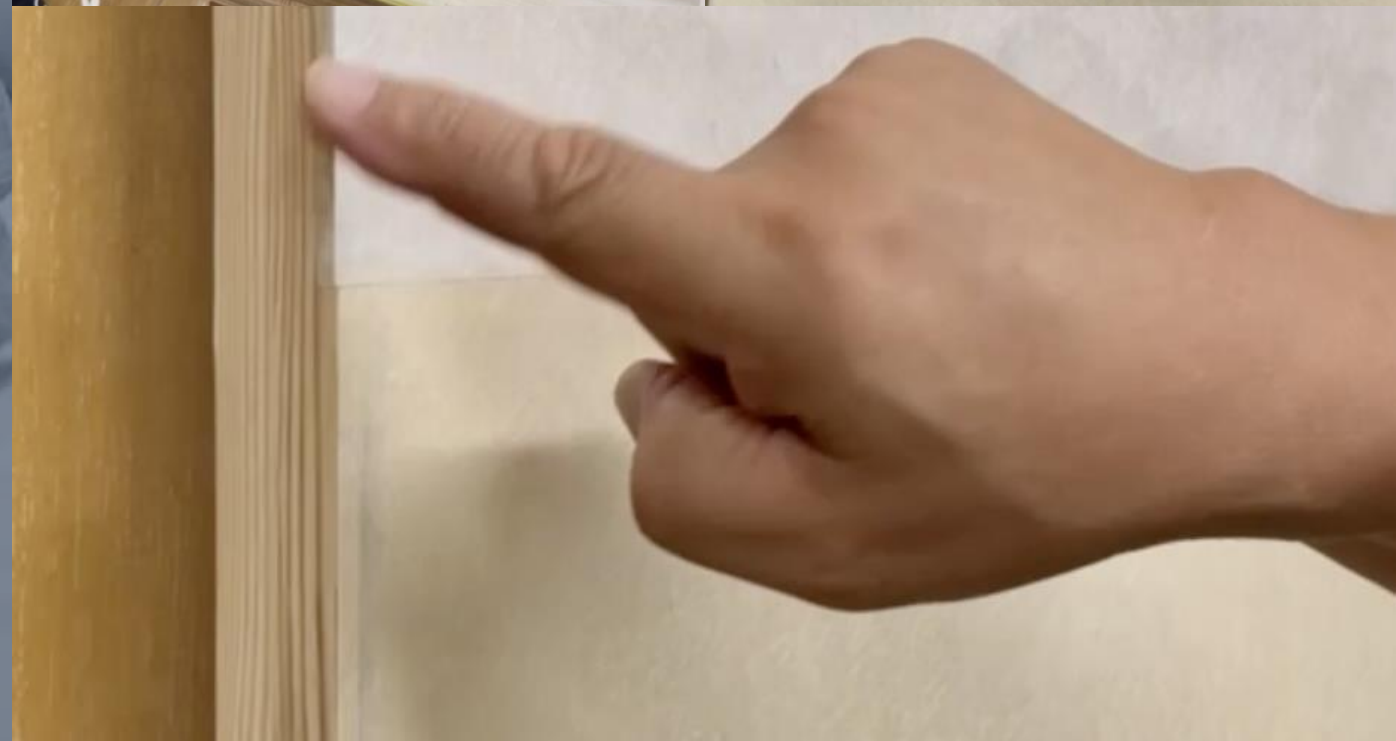
中肉程度の薄口和紙で上口辺は喰い裂きにし、のりしろ部分は框（かまち）の見込み部分に折り曲げず、縦框（たてかまち）紙つがい部分は、框の端から2～3分程度内側に面貼りにて貼り込む。

# 13.下張り作業（上袋貼り）

上袋貼り

中肉以下の上質な手漉き和紙で上口辺を喰い裂きにし、椽（ふち）を取り付ける框（かまち）の見込みに糊しろ部分を折り曲げて貼り込む。

縦框（たてかまち）の紙つがい部分は、下袋が隠れる様に5厘から1分程度内側に貼り込む。



# 14.上張り作業

上貼り

作者の創意や注文主の好みに応じ、多種多様。今回は伝統技術と現代技術の融合というコンセプトで仕立てるため、

葛飾北斎　富岳三十六景「相州江の島」

をデジタルプリントして使用。

# 15.裏張り作業

裏貼り

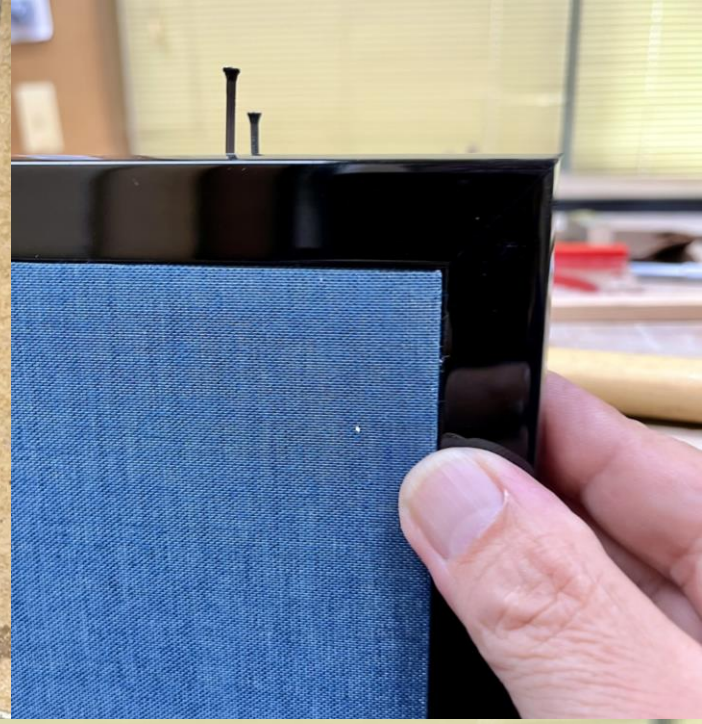
裏張り用の材料は、紙・布・織物など様々。

今回は粋なイメージを出すため紺色の絹しけを使用。

# 16.椽打ち作業

椽(ふち)打ち

本体とのチリや角になる留め部分の仕上がりに注意し、カシュー塗りが欠けやすいので慎重に取り付ける。



# 17.おぜの仕上貼り作業

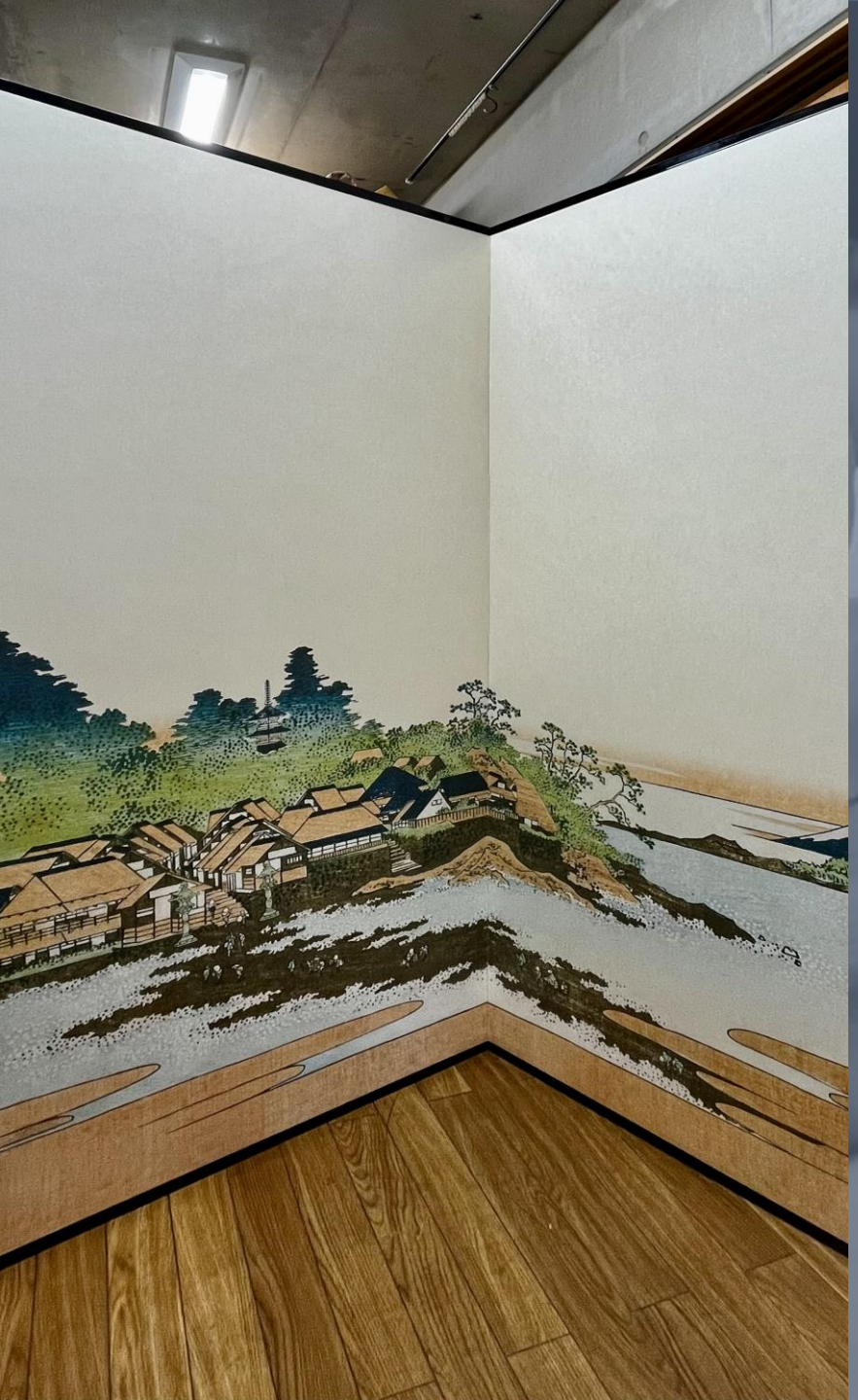
おぜ仕上げ貼り

椽の取り付け後、薄めの合差（あいさ）を挿み表と裏の出おぜに仕上げ貼りを施す。

# 18.飾り金具取付作業

## 飾り金具取付

屏風製作の最終工程で本体の保護や装飾の為、「銀古美花菱透し（ぎんふるみはなびしすかし）」というデザインの八双の取り付け。



# 仕上り